

美術館コレクションについて

About an art museum collection

栃尾美術館ではふるさとゆかりの作家の作品を中心に、絵画、彫刻、工芸、書などを収蔵しています。資料を含めるとその数は2,592点（平成24年1月現在）。一年に3回程度の所蔵品展を行い、その都度、テーマに沿った作品を選んで展示しています。ここまで「美術館コレクションにみる栃尾」で、紹介しきれなかった、ふるさとゆかりの作家の一部を紹介します。

風間 四郎 かざま・しろう
1902～1992

栃尾に生まれ、14歳で上京、商業美術の草創期に活躍した多田北鳥に入門。29歳で独立した後、百貨店のポスター、広告などを手がける。またトッパン（現フレールベル館）、講談社、小学館などの絵本の表紙や挿絵のほか、1948年からは月刊誌「小学一年生」月刊「よいこ」「ベビーブック」「マミ」（小学館）の表紙絵を担当、1970年末まで継続して手がけた。これらの原画を中心に、ポスターデザインなど、資料を含めると当館で最も数の多いコレクションとなる。



慈母観音 1993年
73cm×61cm

所蔵作家

椿 悦志、富川 潤一、堀 愛泉、
風間 四郎、齋藤 三郎、桐生 照子、
多田 清虹、三輪 晃勢、増井 和弘、
など



新宿伊勢丹開店ポスター 1933年
107cm×79.5cm



新宿伊勢丹開店ポスター 1935年
107cm×79.5cm

桐生 照子 きりゅう・てるこ
1937～

栃尾出身、神奈川県在住。光風会、日展で活躍し、ぶどう畑などをモチーフにみずみずしい色彩の油彩画を描いている。2003年には紺綬褒章受章。現在、日展評議員。



ぶどう園 1995～98年
油彩・キャンバス／130cm×162cm

多田 清虹 ただ・せいこう
1937～

栃尾の里山で集めた樹皮や落葉を素材とした独自の貼絵「美里絵（みさとえ）」を制作する。日本手工芸美術展ほか海外でも発表を行う一方で、地域の子どもたちに実技指導を行い美里絵の魅力を伝えている。



辰砂窓絵椿文面取壺 1970年
高さ23cm×直径23cm

齋藤 三郎 さいとう・さぶろう
1913～1981

栃尾に生まれ、高校卒業後、近藤悠三に入門、富本憲吉に師事。24歳で独立した後、京都、神奈川で作陶活動を行う。33歳で高田市（現上越市）へ転居、上越地域の文化振興に尽力した。

栃尾の美 ～とちおてまり～

養蚕や機織りがさかんだった栃尾では、クズ繭の糸や機織りの残り糸を利用して、古くから、祖母や母親の手により、子どもたちのために手がかりてまりが作られてきました。栃尾のてまりは中に七種の実が入り、振ると素朴な音がすること、また100以上もある模様の豊富さが特徴といわれ、伝統的な技法により作られます。当館では平成22年度に企画展「てまりの美」を開催し、栃尾地域と日本各地のてまりを紹介しました。



栃尾の美

～とちおてまり～

毎年、常安寺を会場に開かれるてまりまつりでは製作実演と3000個を超えるてまりの展示即売会が開かれます。5月1日～5日 問い合わせ・栃尾観光協会(0258-51-1195)

栃尾の味

湧き水と肥沃な土に恵まれた米作りは、酒やもちなどの特産品に生かされています。また味噌、しょうゆ、油揚げなど、昔ながらの食材が変わらぬ味で愛され続けています。



あぶらげ

栃尾と言えば、おいしい油揚げ。地元では、「あぶらげ」とよばれ、通常の油揚げの約3倍、長さ20cm、幅6cm、厚さ3cmという大きなものですが、味は意外と繊細。皮は香ばしく、中はふわっと柔らかく、特に揚げたての風味は格別です。栃尾に20軒近くあるあぶらげ屋さんにはそれぞれ味に特徴があります。昼過ぎには売り切れてしまうところも多いため、午前中に買いに行くか、予約をするのがおすすめです。

とちおこしひかり

守門岳や杜々の森など周囲の豊かな水源から湧き出す清らかな水。その水で育てられた「とちお米」のおいしさは格別です。近年、低農薬有機栽培、アイガモ農法などに取り組む農家もあり、さらにおいしい米作りをすすめています。また、秋には半蔵金や田代など米作りのさかんな地域では、なめらかで伸びのよい餅が作られます。



あぶらげまつり・コシヒカリまつり

揚げたてのあぶらげや新米コシヒカリのおにぎりを味わえます。10月第4日曜日 会場：杜々の森（問い合わせ・杜々の森名水公園「アトレとど」(0258-58-3050)）

観光物産フェア とちお自慢市

あぶらげ、地酒、和菓子、織物など栃尾の物産を展示・即売します。6月中旬 会場：道の駅R290とちお（問い合わせ・栃尾観光協会(0258-51-1195)）